

令和2年度 春の企画展

# 病床からフィールドへ

## ～スポーツに取り組んだ戦傷病者の軌跡～

### 開催趣旨

---

1964年に行われた東京パラリンピックは、第1部国際大会の国際ストーク・マンデビル競技大会と第2部の国内大会に分かれて開催されました。第1部では脊髄損傷及び下半身麻痺者で車椅子を使用する選手、第2部では車椅子を除いた身体障がい者の選手が競いました。どちらの大会にも戦傷病者が出場し、多くの競技において記録を残しました。特に第1部国際ストーク・マンデビル競技大会では、箱根療養所（現：国立病院機構箱根病院）から2名の戦傷病者が出場し、両名とも複数のメダルを獲得する快挙を成し遂げました。

本展では戦時中に開催された傷病兵によるスポーツ大会や戦後の1964年東京パラリンピックを通して、戦傷病者が身体機能回復・強化を目指す中でスポーツとどのように関わってきたのかを紹介します。

また、1964年東京パラリンピックのカラー記録映画を上映します。東京パラリンピックのカラー記録映画は現在確認されているものではこの作品しかありません。厚生省・国立箱根療養所（当時）が企画・製作した作品で、開会式や15の競技・種目の様子が詳細に記録されています。

---

主 催 : しょうけい館（戦傷病者史料館）  
会 期 : 令和3（2021）年3月16日（火）～5月9日（日）  
会 場 : しょうけい館 1階 企画展示室  
入 場 料 : 無料  
開 館 時 間 : 10:00～17:30（入館は17:00まで）  
休 館 日 : 毎週月曜日・5月6日＜5月3日は開館＞  
内 覧 会 : 3月16日（火）10:00～  
協 力 : 公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会、  
社会福祉法人太陽の家  
資 料 提 供 : 公益財団法人日本障がい者スポーツ協会  
問 い 合 せ : しょうけい館 永島 電話 03（3234）7821

※状況により中止とさせていただきます場合があります。中止の場合はホームページにてお知らせいたしますので、ご確認願います。

---

## 展示構成

### 1. 戦時中の傷痍軍人とスポーツ大会

戦時中の日本では、身体機能の回復を目指す訓練の一環として傷痍軍人によるスポーツ大会が行われていました。昭和 14（1939）年 3 月 19 日には大日本体育協会が国内初とみられる「傷兵慰問体育運動大会」を開催しました。日中戦争の傷病兵ら約 150 名が出場し、自転車運動、銃剣術などの競技が行われました。



パンフレット「傷兵慰問体育運動大会」  
（昭和 14 年）

「傷兵慰問体育運動大会」以降、傷痍軍人に関する施設では様々なスポーツ大会が行われていました。特に昭和 17（1942）年、小石川後樂園スタジアムで行われた大会は、戦時中最大規模の大会であり、東京の各陸軍病院や軍医学校、職業指導所などから約 4000 人の傷痍軍人が参加し、6000 人もの国民学校の児童も参加するほど盛大に行われました。

この章では、戦時中に行われていた傷痍軍人によるスポーツ大会の様子を中心に紹介します。



綱引きをする傷痍軍人たち



俵担ぎをする傷痍軍人たち



仮装行列をなす傷痍軍人たち

## 2. 国際ストーク・マンデビル競技大会の歴史と東京大会開催の要請

イギリスでは第二次世界大戦中に多くの負傷者が出ることを見越して、専門別に病院を設置しました。ロンドン郊外のストーク・マンデビルに建設された脊髄損傷専門病院（ストーク・マンデビル病院）の院長であったルードヴィヒ・グットマン博士は、脊髄を負傷した患者に残された体を最大限に使う治療法としてスポーツを早くからとり入れ、スポーツを主としたリハビリテーションに力を入れていました。

昭和 23（1948）年にはこの病院内で入院患者によるスポーツ競技会（ストーク・マンデビル競技会）を開催し、4年後には国際的な両下肢麻痺者によるスポーツ競技会として発展してきました。



ルードヴィヒ・グットマン博士  
（提供：社会福祉法人太陽の家）

昭和 35（1960）年にローマで開催されたオリンピックの直後、同じ場所で国際ストーク・マンデビル競技会（のちの第 1 回パラリンピック大会）が開催されました。

その後、欧米の身障者スポーツの取り組みを視察するためにストーク・マンデビル病院を訪れた日本の専門家らは、グットマン博士から 1964 年東京オリンピックの後、国際ストーク・マンデビル競技大会を開催してほしいと要請されました。

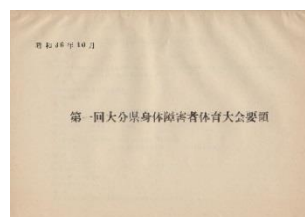
そんな中、グットマン博士の元に留学した国立別府病院の中村裕博士が中心となり、昭和 36（1961）年に大分県で身体障害者体育大会が全国で初めて開催され、身障者スポーツの振興と、パラリンピック開催の促進に大きな影響を与えました。

この章では、パラリンピックの歴史とその開催に尽力した人物を紹介します。

※国際ストーク・マンデビル競技会は両下肢麻痺者「Paraplegia（対麻痺者）」とオリンピック「Olympic」の 2 つの言葉を合わせて「Paralympic（パラリンピック）」という名称が東京大会の際につけられたとされています。



中村裕 博士  
（提供：社会福祉法人太陽の家）



第 1 回大分県身体障害者体育大会要領  
（昭和 36 年）

### 3. 日本開催に向けて

---

東京でパラリンピックの開催が正式に決定されると、出場選手である脊髄損傷者及び下半身麻痺者を集める必要が出てきます。脊髄損傷者を受け入れている施設から多くの選手が集められ、特に箱根療養所からは日本代表選手 53 名のうち 19 名もの選手が出場することとなりました。

この章では、東京パラリンピックに向けた練習や活動を映像と資料で紹介します。



パラリンピックに向けた  
フェンシングの練習



パラリンピックに向けた  
アーチェリーの練習

### 4. 1964 年東京パラリンピック

---

東京パラリンピックは、第 1 部の国際ストーク・マンデビル競技大会と、第 2 部の国際身体障害者スポーツ大会（国内大会）に分かれて開催されました。第 1 部では脊髄損傷及び下半身麻痺者で車椅子を使用する選手、第 2 部では車椅子を除いた身体障がい者（肢体不自由者・視覚障がい者・聴覚障がい者）の選手が競い合いました。

この章では、1964 年東京パラリンピックについて関連資料や映像を基に紹介します。

※開催期間 昭和 39（1964）年 11 月 8 日～11 月 12 日（第 1 部）  
11 月 13 日・14 日（第 2 部）

**注目資料：カラー記録映画「PARALYMPIC TOKYO 1964」**

1964 年東京パラリンピック第 1 部国際大会の様子を収めた記録映画です。東京パラリンピックのカラーによる記録映画は、現在確認されているものではこの作品しかありません。

## 「1964年東京パラリンピック」カラー記録映画について

### 1. 基本情報

- 形式 : 16mm フィルム  
時間 : 約 26 分 (内モノクロ部分あり (約 4 分 40 秒))  
タイトル : 「PARALYMPIC TOKYO 1964」  
ナレーション : あり (日本語)  
寄贈者 : 独立行政法人国立病院機構 箱根病院  
企画・製作者 : 厚生省 国立箱根療養所 (当時)



カラー記録映画「PARALYMPIC TOKYO 1964」

### 2. 映像・音声内容

#### (1) 映像内容

##### ■主要映像

- ・開会式の様子
- ・15の競技・種目の記録  
アーチェリー、ダーチャリー、卓球、フェンシング、重量挙げ、槍正確投、槍投、砲丸投、円盤投、棍棒投、車椅子競技(50m)、車椅子スラローム(モノクロ映像)、車椅子リレー(モノクロ映像)、水泳、バスケットボール  
※各競技名は映像記録の順
- ・会場周辺(選手が利用する食堂に設置した大型スロープや車椅子専用車両など)の様子

##### ■記録されている主要人物

- ・開会式  
皇太子殿下・皇太子妃殿下(当時)、グットマン博士、入場行進する日本人選手団など
- ・競技記録  
フェンシング競技中の青野選手(銀メダル獲得)

#### (2) ナレーション

- ・日本選手団団長で医師の中村裕博士などが実施した外国人選手の実態調査の調査結果の要点と、各競技の概要や種目区分(障害別)の紹介、日本選手と外国選手の社会環境の差異の分析などが紹介されています。

※参考資料 中村裕 1965年「国際身体障害者スポーツ大会を終りて」  
『整形外科 16巻5号』p459～479

## 5. パラリンピックに出場した戦傷病者たち

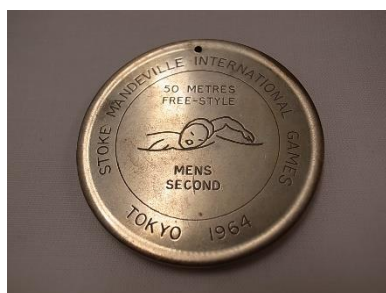
1964年東京パラリンピック第1部の国際大会において2名の戦傷病者が活躍しました。1名は青野繁夫氏、もう1名は松本毅氏です。青野氏は水泳で2位、フェンシング団体で2位と2つの銀メダルを獲得しただけでなく、選手団の代表を務め、開会式では選手宣誓を行いました。一方の松本氏は、ダーチャリーで3位、アーチェリー団体で2位という記録を残しました。

また、パラリンピック第2部の国内大会においても、確認できている限り数名の戦傷病者が出場しており、競技の記録も残っています。

この章では、関係する資料とともに、出場した戦傷病者の活躍を紹介します。



青野繁夫氏



青野繁夫氏が獲得したメダル（水泳2位）  
青野行雄氏所蔵



青野繁夫氏の  
選手宣誓文が刻まれた竹細工

### パラリンピックに参加して（青野 繁夫）

・フェンシングに於て、私達の技は確かに練習期間も8ヵ月という短時日で、西欧の伝統に対抗しようとするのであるから、考えれば無茶という人もあったと思うが、私達は敢然とそれに斗い、とにかくやり抜き、銀メダルを獲得出来た～（中略）～いずれにしても、水泳、フェンシングとも銀メダルを得た事は、自分の努力が報いられたものだけに、今迄の病床生活を思い、心から喜びをかくし様がなかった。

・今後自らをより一層強く持して、将来に期待して、人間として与えられた使命を果す如く、鋭意努力したいと、この意義あるパラリンピックに参加して、心に確く期した次第である。

出典：『国際身体障害者スポーツ競技会 東京パラリンピック大会 報告書』

## 6. 車椅子スポーツの振興

---

東京パラリンピック後の国立箱根療養所では、脊髄損傷者によるスポーツ発展と医学的管理を確立するために、車椅子スポーツ大会と同時に医学研究会を開催してきました。国立別府病院をはじめ、様々な関係機関の脊髄損傷者が数多く参加しました。

ここでは、箱根療養所でパラリンピックの後に行われた車椅子スポーツ大会について紹介します。



第1回車椅子スポーツ医学研究会  
基調講演の様子



第1回車椅子スポーツ医学研究会  
スポーツ大会の様子（バスケットボール）

### 映像上映

---

内 容：企画展に関連する映像を上映します。

日 時：会期中毎日 10：00～17：00（一部上映休止日・時間があります。）

場 所：しょうけい館1階 証言映像シアター

その他：鑑賞自由・無料

映像内容等は [上映スケジュール](#) をご確認ください。

## 上映スケジュール

上映時刻	映像タイトル	時間
10:00 }	<カラー記録映画>「PARALYMPIC TOKYO 1964」	26分
	<証言映像>多くの人に助けられて	18分
11:00 }	<証言映像>ある生活(夫婦)	5分
	<証言映像>受傷の労苦と葛藤を超えて	10分
11:00 }	<カラー記録映画>「PARALYMPIC TOKYO 1964」	26分
	<証言映像>四十四年間～脊髄損傷の夫とともに生きぬいて～	24分
12:00	<証言映像>8人の傷痍軍人	8分
12:00 }	<カラー記録映画>「PARALYMPIC TOKYO 1964」	26分
	<証言映像>体験記をまとめて知った父の想い	22分
13:00	<証言映像>療養所は大きな家族～支えあい、助けあい～	10分
13:00 }	<カラー記録映画>「PARALYMPIC TOKYO 1964」	26分
	<証言映像>箱根療養所	13分
14:00	<証言映像>誠(まごころ)で守られた命—ニューギニア戦線にて	19分
14:00 }	<カラー記録映画>「PARALYMPIC TOKYO 1964」	26分
	<証言映像>手の代わりに腕が・・・	11分
15:00 }	<証言映像>受傷の労苦と葛藤を超えて	10分
	<証言映像>暖かい支援にささえられて～傷痍軍人としての誇りと生きがい～	10分
15:00 }	<カラー記録映画>「PARALYMPIC TOKYO 1964」	26分
	<証言映像>四十四年間～脊髄損傷の夫とともに生きぬいて～	24分
16:00	<証言映像>8人の傷痍軍人	8分
16:00 }	<カラー記録映画>「PARALYMPIC TOKYO 1964」	26分
	<証言映像>体験記をまとめて知った父の想い	22分
17:00	<証言映像>療養所は大きな家族～支えあい、助けあい～	10分

- ◆上映時間以外でも、情報検索機にてご覧いただけます。
- ◆上映の休止：休館日、第三土曜日の12:00～17:00
- ◆団体プログラムにより、上映時刻等が変更となる場合があります。